

令和6年(2024年)12月定例議会本会議(12月12日)

民生常任委員長報告(所管事務調査・他都市調査)

ただいま議題となりました行政部門別常任委員会の所管事務調査について、民生常任委員会における調査の経過と結果を報告します。

委員会は、5月16日、今年度の他都市調査の日程及び調査テーマを決定し、6月12日、各委員から提案があった調査項目について協議を行いました。

その結果、9月3日、今年度の他都市調査として、愛知県豊田市のアドバンス・ケア・プランニング(ACP[通称:人生会議])の推進について、滋賀県社会福祉協議会の「子どもの笑顔はぐくみプロジェクト」について、及び北海道札幌市の子ども発達支援総合センター「ちくたく」について、それぞれ視察することと決定し、11月6日から8日までの3日間で視察を行いました。

また、これを受け、12月2日、視察した内容について委員間で意見交換を行いました。

意見交換の主な内容を申し上げますと、まず、アドバンス・ケア・プランニングについて視察した豊田市では、「人生の最期までどのように生きたいか」といった点を重視し、医療や介護の専門職と連

携しながら本人の意思決定を支援する取組を行っており、年月を経るごとに本人の希望が変わる中でどのように対応するのか、本人の希望を叶えることができるのかといった課題はあるものの、既に本市で実施している在宅療養連携事業や終活支援事業とともに進めることでこれらの取組との相乗効果が期待できるということで、おおむね委員の意見が一致しました。

これを受け、委員から「アドバンス・ケア・プランニングの啓発について、委員会として執行部に希望意見を付したい。」という提案があり、協議を行った結果、「知りたくない方や考えたくない方への配慮は必要であるが、自らについて考えてもらうためのきっかけづくりとしての啓発については意義がある。」ということを経験委員間で確認の上、希望意見を付すことと決定しました。

次に、滋賀県社会福祉協議会の「子どもの笑顔 はぐくみプロジェクト」については、「子ども食堂が200か所以上あることや社会福祉施設等を活用したフリースペースの取組、また、この取組を支える県社協の職員の営業努力等は素晴らしいが、本市の社会福祉協議会が抱える課題や地域性の違いなどもあり、本市で同様の取組を進める場合は事業主体や手法等の整理が必要であるということで、委

員の意見が一致しました。

これを受け、委員から「本市における子ども食堂やフリースペース等の実態調査について、委員会として執行部に希望意見を付したい。」という提案があり、協議を行った結果、提案のとおり決定しました。

次に、札幌市の子ども発達支援総合センター「ちくたく」についてです。この施設は、医療施設や児童発達支援施設だけではなく、本市にはない障害児入所施設や児童心理治療施設も合わせ持つ理想的な複合施設でしたが、予算上の問題もあることから、必ずしも市単独で全ての施設を備える必要はなく、大事なことは必要な機能を確保することであり、医療と福祉の一元的な支援のニーズが高まっている中、相談支援体制を充実させていくことも今後の課題であるということで、委員の意見が一致しました。

これを受け、委員から「子どもの発達支援については様々な課題があるが、まずは障害のある子どもを持つ家族に対するレスパイト機能の充実について、執行部に希望意見を付したい。」という提案があり、協議を行った結果、提案のとおり決定しました。

最後に、今回の所管事務調査の結果、本委員会としてまとまりま

した希望意見を申し上げ、本調査を終了します。

- 1 アドバンス・ケア・プランニングの周知啓発を行うとともに、この取組を通じて本市で実施している在宅療養連携事業や終活支援事業のさらなる充実にも努められたい。
- 2 子どもの居場所づくりの在り方を検討するため、子ども食堂、フリースペース、無料の学習支援など、子どもの居場所づくりを支援している市内施設等の現状を把握するよう努められたい。
- 3 障害のある子どもを持つ家族の負担軽減のため、レスパイト機能の充実を図るよう努められたい。

以上で報告を終わります。